

令和2年度自己評価・学校関係者評価報告書

(学)聖パウロ学園 聖パウロ幼稚園

1. 本園の教育目標

- ① 身体の健康を保ち、たくましく成長する子どもに育てる。
- ② 明るく豊かな心情を養い、神を敬う気持ちを持つ子どもに育てる。
- ③ 友達と仲良く遊び、自立心のある子どもに育てる。
- ④ 自分で考えたり、工夫する態度を養い、のびのびと自由に表現できる子どもに育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

聖パウロ幼稚園の役割と私たちが目指す教育・保育について明確にすることを目標に掲げた。継続して取り組む「個々を大事にする保育、一人の子どもを全教職員で育てる」保育を実践していくための更なる充実を目指す。

3. 評価項目の達成目標及び取組状況

	評価目標	評価	取組状況
1	職員の資質向上 -園内研修の充実-	A	ミッションステートメントを作成した。ワークショップの方法で、幼児理解を深めるための研修を毎月実施することで、教職員が一体となって園の目指す保育に取り組む姿勢がさらに向上した。
2	個別に配慮が必要な 幼児への園内支援体制	A	個別に配慮が必要な幼児に対して、サポート体制を整え継続して取り組むことができた。今年度も NPO 法人もりおかユースポート巡回訪問支援を受け入れ、対象児の行動観察と個別検査、午後にはケース検討会議を行ない教職員間で共有し対象児の理解を深めた。 園児一人一人、どの子も特別視することなく受け入れるクラス作り、「今できないことや困っていることに手を貸す」ことが当たり前の環境の中で個別に配慮が必要な幼児の成長が見られた。
3	遊びを深める 環境	B	園庭や室内の環境について話し合い、遊びが充実するように幼児の発達に添った室内と園庭の環境の構成に取り組んできた。 時には教師自らが遊びに加わり、一緒になって楽しむことで、より子どもたちの気持ち引き込み、遊びが充実し長く継続していった事例がみられた。異年齢での交流が良い刺激となって遊びが広がっていった。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、教職員が同じ目標に向かって、聖パウロ幼稚園の目指す保育に取り組むことができた。また、さらなる質の向上に向けた課題も明確になり、保育者自身も次に向かう意欲につながっている。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 次年度重点的に取り組む課題

	課題・目標	具体的な取り組み方法
1	園の教育保育の質の向上	園の教育課程が子ども達の育ちに即しているものなのかを見直し、改善を図る。
2	環境	遊ばせる環境ではなく、遊びが充実していくための環境構成に取り組む。特に、満3歳児の発達に即した環境に配慮する。
3	幼小接続	幼稚園と小学校の教師が共に学ぶ機会を持ち、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有して教育の接続を図る ※令和2年度の重点目標であったが、コロナ禍の中で実施することができなかったため、次年度には実施したい。

6. 学校関係者評価委員会の評価

とても園全体の雰囲気良かった。日頃の保育ではたくさんの愛情に包まれて、のびのびとその子らしく、その子のやり方で遊びや活動に取り組む姿が見られた。「お互いを大切に思い合う」という園の方針が浸透し、大人（訪問者）に対してとても親しみを持って接してきて、大人に対して安心感や信頼というものが育まれている。とかく保護者は行事によって子ども達がより成長できると期待するが、それだけでなく、日々の何気ない日常の中にこそ、育ちの芽がたくさんあって、それぞれの子ども達の芽を見つけ育んできたことが、子ども達の成長した姿から感じ取れた。園が掲げる、「一人の子どもをみんなで育てる」を大切にされた保育がなされ、子どもを中心に園づくりがされている様子は大変良いと感じた。今後も期待して園の成長を見守っていききたい。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

(2021.3.31)